

# 日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト

## アルハンガイ県再講習会

### 派遣メンバー

団 長：根來 信也（国際部）  
地方班：奈須 開生（宮崎県柔道整復師会）  
河村 亜希（茨城県柔道接骨師会）  
大学班：本間 琢英（国際部）  
楠美 明人（埼玉県接骨師会）  
浪尾 敬一（香川県接骨師会）  
横田 良介（宮城県柔道整復師会）



指導者候補：エンフタイワン・トゥブシンバヤル、ガントルガ・ノミンテンギス、  
バトムンク・アルタンエルデネ、オユンバートル・ダリルチュルン、  
ダシュラウダン・ボロルトウーヤ

### 日 程

2月22日：出発 根來 奈須 楠美 河村 浪尾 横田 0M502 16：30（成田）—21：20（UB）

23日：11：00 出発

17：00 ハラホリン 世界遺産エルデニゾー到着

19：30 ツェツェレルグ到着

24日：9：45 講義会場視察（アルハンガイ県々都ツェツェレルグ保健所）

ナラ普及員との打ち合わせ

その後現地視察

15：00 ミーティング



写真1. 会場にて講義打ち合わせ



写真2. 現地視察（イヒ・ターミナルソム）

25日：講義第1日目

通訳：トゥブシンバヤル

午前：開講式

(1) 挨拶

- ①アルハンガイ県々都ツェツェレルグ保健所 ガンディマ保健所長
- ②アルハンガイ県普及員 ナラ普及員
- ③根來 信也

(2) プロジェクト概要説明・アンケート調査 (根來・トゥブシン)  
テレビ局取材

講義－診察概論 (根來・奈須・楠美・河村・浪尾・横田)

基本包帯法理論 (トゥブシン・根來・奈須・楠美・河村・浪尾・横田)

午後：講義－基本包帯法実技 (トゥブシン・根來・奈須・楠美・河村・浪尾・横田)

基本固定法実技 (奈須・根來・楠美・河村・浪尾・横田)

臨床実習指導 (浪尾・河村・ダリア・ボルロー・アルタイ)

モンテギア骨折受傷の受講生へ固定施行および日常生活指導

試験－筆記試験



写真 3. 現地テレビ局取材



写真 4. 基本包帯法 (トゥブシン)



写真 5. 臨床実習指導



写真 6. 基本固定法実技 (横田)

26日：講義第2日目

通訳：トゥブシンバヤル

午前：追試試験

講義一下腿骨骨折理論（浪尾・根來・奈須・楠美・河村・横田）

講義一下腿骨骨折実技（浪尾・根來・奈須・楠美・河村・横田）

午後：臨床実習指導 モンテギア骨折受傷の受講生へ固定解説（浪尾）

講義一鎖骨骨折理論（奈須・根來・楠美・河村・浪尾・横田）

講義一鎖骨骨折実技（奈須・根來・楠美・河村・浪尾・横田）

試験一筆記試験



写真7. 下腿骨骨折実技（浪尾）



写真8. 鎖骨骨折実技（奈須）

27日：出発 本間 KE706E 9:10（成田）－11:50（ICN）

KE867E 13:00（ICN）－15:45（UB）

講義第3日目

通訳：トゥブシンバヤル

午前：追試試験

講義一肩関節脱臼理論（河村・根來・奈須・楠美・浪尾・横田）

講義一肩関節脱臼実技（河村・根來・奈須・楠美・浪尾・横田）

午後：試験一実技試験

テレビ局取材

閉講式一挨拶

感謝状授与

講評

成績優秀者表彰

受講証授与



写真9. 肩関節脱臼理論（河村）



写真 10. 実技試験テレビ局取材（奈須）



写真 11. 実技試験（楠美）



写真 12. 受講生一同



写真 13. 成績優秀者一同

28日：午前：公開講座（アルハンガイ県々都ツェツェレルグ保健所にて）  
午後：ウランバートルへ移動



写真 14. ケガの初期治療の重要性の啓発（寸劇）



写真 15. 身近にある物での固定

3月1日：午前：在モンゴル日本大使館訪問  
アマロ先生とミーティング  
午後：日本人死亡者慰霊碑・献花  
大学でミーティング



写真 16. ダンバダルジャ墓地にて

2日：公開講座 モンゴル・日本人材開発センター 1階多目的ホールにて

13:30 受付 14:00～16:00

来賓挨拶

- ① 在モンゴル日本大使館 大使代理 二等書記官 黒木健太郎様
- ② ICAモンゴル事務所 所長 磯貝季典様

来賓紹介

- ① モンゴル国立健康科学大学 副学長 D.アマルサイハン先生
- ② モンゴル JICA 事務所 所員 脇坂 豊 様
- ③ モンゴル国立健康科学大学付属 医療技術大学

研究所長 臨床科責任者 バイガル 先生

教師 セレゲレナチメグ 先生

教師 デルゲルマ 先生

- ④ モンゴル日本センター業務調整員 阿部 直美 様

開催主旨説明（本間）

派遣者、指導者候補、普及員、協力学生紹介

シンポジウム

- ① 本プロジェクトの経緯ならびにモンゴルにおける医療状況について  
モンゴル国立健康科学大学 副学長 D.アマルサイハン先生
- ② アンケート調査による本プロジェクトの成果について  
モンゴル国立健康科学大学付属 医療技術大学

研究所長 臨床科責任者 バイガル 先生

- ③ 柔道整復術の紹介、ケガの応急処置について（実技を含む）

（本間・根来・奈須・河村・横田・浪尾・楠美）

3日：現地視察（浪尾・横田・楠美・奈須）

普及員会議（本間・根来・河村）通訳ツブシン

- ① 参加者へのアンケート
- ② 自己紹介 7名参加
- ③ プロジェクト説明
- ④ アンケートについて
- ⑤ 普及員について
- ⑥ 受講証授与・記念撮影
- ⑦ 明日のスケジュールなどについて



写真 17. 普及員一同

4日：帰国 根来 奈須 河村 OM501 9:40(UB)—15:30 (成田)

本間 KE5866B 8:05(UB)—12:15 (ICN)

KE5703B 13:40 (ICN) —16:00 (成田)

JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクトは前回同様にアルハンガイ県で開催し、アルハンガイ県、ウブスハンガイ県、フブスグル県の3アイマグを対象とし、エンフタイワン・トゥブシンバヤル、ガントルガ・ノミンテンギス、バトムンク・アルタンエルデネ、オユンバートル・ダリルチュルン、ダシュラウダン・ボロルトウーヤの5名を通訳

および指導者としての育成を目的に、同行しての講義となった。参加者は55名であった。

講習会終了翌日、地域住民を対象にケガの初期治療の重要性をテーマとした公開講座を開催した。本公開講座は、前回保健所長とのミーティングでアルハンガイ県では交通事故が急増していることが明らかとなり、地域住民に対するケガの初期治療の重要性の啓発は、保健所としても重要な活動であるとの認識であった。



写真 18. 三角巾を使った固定 (1)



写真 19. 三角巾を使った固定 (2)

また、講義の際に骨折の初期治療を行わず変形治癒が認められた受講生が2名おり、ケガの初期治療の重要性を今後も講義、公開講座等を通してバグ医師、地域住民に伝えていく必要性が示唆された。

患者：59歳女性 バグ医師

原因：H24年11月中旬にバイクから転落し、左前腕近位部をついて受傷する。

経過：当初、筋肉の損傷と判断し、約1ヶ月我慢していた。1ヶ月後に病院に受診して左尺骨骨幹部骨折が判明する。触診ならびにレントゲン写真より、左モンテギア骨折と判断する。



写真 20. レントゲン写真確認



写真 21. 外観像

3月2日には、モンゴル・日本人材開発センター1階多目的ホールにて、市民公開講座を開催した（詳細は別紙報告書参照）。また、翌日の3日には、各アイマグより選出された普及員とともに昨年実施したアンケート調査結果ならびに今後の展開について会議を行った。